

教室でできる特別支援教育

保護者と教師の

よりよい連携のために



親と子をサポートするLD親の会「ハートtoハート」代表  
**長島 純子**

ながしま じゅんこ\*LD親の会「ハートtoハート」代表、養父市民生児童委員、養父市行政改革推進委員、二児の母(専門学校学生、高校2年生)。「ハートtoハート」平成19年2月「子どもの育成を考える会」として発足。平成20年1月に発達障害を専門に考える親の会「ハートtoハート」として分会。主に当事者と保護者の支援活動を行う。但馬地方では初めて民間団体で、自主映画試写会「星孫」を企画し600人が鑑賞。年1回、著名な講師を招いて教育講演会を開催する。また、地域で子育て応援番組をCATVと共同企画制作し地域への啓発活動を行っている。

名城大学大学院 大学・学校づくり研究科准教授  
**曾山 和彦**

そやま かずひこ\*1961年群馬県生まれ。東京芸芸大学卒業、秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士課程修了。東京都、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導主事、管理主事を経て現職。社会福祉学博士。学校心理士。上級教育カウンセラー。編著書に「気になる子への対応術」(教育開発研究所)、「特別支援教育に生かせるカウンセリング」(ぎょうせい)、著書に「時々“オこの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキルトレーニング」(明治図書)ほか多数。

**曾山** 子どもを育むために、保護者と教師が力を合わせ、連携していくことが大切であるのはいうまでもないことです。本対談では、保護者の立場(長島さん)、教師の立場(曾山)で、互いのこれまでの経験を元に話し合い、そこから「よりよい連携のヒント」を整理できればと思います。よろしくお願ひします。

息子さんは現在、高校2年生とお伺いしましたが、高校での様子はいかがですか？

**長島** 週3日、元気に、楽しく、通信制高校に通っています。学力面で周りについていけないだろうかと心配しましたが、それなりにやれているようで、親としても驚いています。

**曾山** 息子さんが元気に、楽しく高校に通うことができて、何よりもうれしいことですね。今の良好な状況は、どのようなことがプラスに作用しているのでしょうか？

**長島** 人との関わり、特に同世代の子とのつき合いはちょっと苦手なのですが、先生との関わりを楽しめていること、自分のペースで

やるべきことが進められる学校の雰囲気が入っているようです。

サポートファイルを

「連携」の仲立ちに

**曾山** 学校、先生方が息子さんの状況を理解して関わっているからこそ、息子さんにとって充実した高校生活になっているのですね。小学校の頃は、学校での様子はいかがでしたか？

**長島** 息子は、3歳の頃に医療機関でPDD(広汎性発達障害)と診断されました。早い時期に診断を受けたので、その後の学校生活を見据え、常に先のことを考えながら対処できました。小学校入学前には、子どもセンター、幼稚園、小学校の各先生方が集まって話し合う機会を設けていただき、「サポートファイル」を作成しました。ファイルには、息子の成長記録、してほしいこと、してほしいくないこと等を明確に記した資料を入れました。小学校入学時には、学校に対して、「担任だけでなく、校内の先生方

全員が息子の状況を理解して関わっていただきたい」というお願いをしました。

**曾山** サポートファイルは、現在の特別支援教育体制の「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」に相当するものですね。ファイル作成の話し合いの中で、例えば、入学式に臨むにあたり、学校側にはどのようなことを伝えましたか？

**長島** 入学式など見通しがもたれにくい場面ではパニックになること

があります。そこで、息子が式の見通しをもてるよう、「この音楽が流れたら歩いていって、この場所に立つのよ。次に、『座ってください』という声が聞こえたら、イスに座るのよ」等の流れを、初めに説明していただければ本人は納得します。しかし、何かの事情で、式の流れが突然変わるようなことがあると、パニックになるかもしれません。その時には、先生がそばに行き、「大丈夫だよ」と声をかけてくだされば、本人は安心す



A君がパニックになりそう!近くに行って声をかけなくちゃ!!

音楽が流れたら、イスのところまで歩いていって...

え!? 先生がいきなり!!

オロオロ

ると思います。声をかけてもなかなか収まらないときには、一度会場から外に出て、静かなところでクールダウンをさせてください。パニックが収まり、本人が「戻れる」と言ったら会場に一緒に戻っていただければ……。このようなことを伝えました。

**曾山** 息子さんのことを伺い、私も以前、養護学校で関わった子どもたちのことを思い出しました。避難訓練のように、突然、日課が変更になるときなどは、何日も前から「〇日の〇時間目は避難訓練があるよ」と伝えておく必要がある子どもがたくさんいました。中には、言葉だけでなく、文字カード等の視覚的サポートも必要な子どもがいましたが、息子さんにとって、視覚的サポートというのはどうですか？ 効果を感じる場面がありましたでしょうか？

**長島** 息子にとっても、視覚的サポートはとても効果があり、特に絵カードの効きがよかったです。例えば、朝起きてから寝るまでの流れを絵に大きく描いて壁に貼ります。「朝起きる、顔を洗う、

ご飯を食べる、着替える、学校へ行く。帰ってきたら…」これらの行動を絵で示し、「できたかな？」と一つずつ確認します。それがある程度、自分でできるようになるまで繰り返します。このようなサポートを学校でもしていただけるようにお願いしました。

小学校は

「総天然色の世界」!

**曾山** 学校との良好な連携により小学校生活がスタートしたわけですが、今、振り返ると、息子さんにとっての6年間の小学校生活はどのような感じだったでしょうか？

**長島** 1学年2学級、1学級児童数約30名の比較的小規模の学校でしたので、先生方からは配慮



じ方が担当されたの  
でしょうか？

**長島** いいえ。担任の先生は5年生まで毎年替わりました。しかし、息子にとつて、小学校の担任の先生方はとてもよいイメージがあるようです。

**曾山** PDDの障害特性の一つに、対人関係の弱さがありますが、毎年、担任の先生が替わったにもかかわらず、息子さんがうまく関係をつくることができたのはなぜでしょう？

**長島** 担任の先生との関係づくりは、毎年ゼロからのスタートでしたが、どの先生も一生懸命、息子に寄り添ってくださいましたので、先生に対する息子の信頼は絶対でした。

**曾山** それぞれの先生が、サポートファイルの内容を毎年引き継いでいったということもあるのでしょうか？

**長島** はい。新しい先生に必ず内容が引き継がれていました。校長先生をはじめ、先生方同士

## 中学校での

### 「ボタン」のかけ違い

**曾山** 中学校入学に向けても、小学校入学時と同じように、関係する先生方が集まって話し合う機会はあったのですか？

**長島** 入学前に一度、中学校の先生方とお会いする時間を設定していただきました。中学校では、皆と一緒にできないことが多い、自尊心が落ちてしまいうだろうと予想しました。そこで、できるだけそうならないように配慮していただきたい、具体的には息子のことを発達障害も含



**曾山** 中学校に入学後の息子さんの様子はどうでしたか？

**長島** 在籍1名の特別支援学級に籍を置いてスタートしましたが、お渡ししたサポートファイルも、あまり活用されなかったようでした。中学校の

が息子に対する情報を共有していただき、息子がどこにいても先生方から声をかけていただけたら、そんな雰囲気は小学校にはありました。息子は今でも、小学校時代の話をよくします。息子は、小学校時代を「総天然色の世界」と表現します。それほど、小学校は楽しい思い出いっぱいなのだと思います。

## 教師への信頼が

### 生まれるきっかけは「傾聴」

**曾山** 息子さんにとって「総天然色の世界」が生まれたのは、保護者と教師の間に信頼関係がしっかりと構築されたからこそだと思います。長島さんの中で、「この先生なら」と信頼への気持ちが生まれるきっかけとなったような、先生の言葉というのはありますか？

**長島** 保護者の立場からすると、話を聴いてもらうだけで安心することがあります。小学校では、どの先生方も私の話を聴いてくださいました。そのうえで、先生方から、「私は発達障害については詳しくありませんので、ぜひ

先生は、息子のために一生懸命関わってくださいとは思いません。でも、SOSを出しているときに助けてもらえず、逆に一人にしてほしいときに関わられてしまったという思いが、息子にはあったようです。「がんばれ、がんばれ」と言われ続けたことが息子にとつては大きな負担となり、先生方への信頼感がなかなか築けなかったのだと思います。

**曾山** 先生方は、何とか息子さんと関係をつくらうと言葉をかけたこと、ということもあるのでしょうかね。「関係づくり」のヒントが記されたサポートファイルは、どうして中学校側であまり活用されなかったのでしょうか。

**長島** おそらく、入学前の話し合いの際に、息子に対して「構え」があったように、私たち親に対しても「無理を要求してくる保護者」という構えをもたれたのではないかと思えます。そうしたボタンのかけ違いを、お互いになかなか解消することができません。籍は支援学級に置き、苦手な教科の指導は支援学級の担任の先生にお願いし、その他の、皆と

教えてください。一緒に考えてやっていきましょう」と言われると、本当にうれしくなり、先生方への信頼の気持ちが強まりました。

**曾山** 先生方が、保護者の話を聴く姿勢を見せることがとても大切ということですね。耳も目も心も合わせて保護者に向き合う「傾聴」の大切さを確認できたように思います。保護者との良好な関係をつくるためには、まず、「洋服」の第一ボタンをかけないと、続く第二、第三ボタンがかかりません。「話を聴くこと」「一緒に考えようとする姿勢」が、第一ボタンをかけることにつながりそうですね。

**長島** 保護者が先生方を信頼して話ができるようになると子どもも安心します。小学校では、そうした安心感をベースに、息子と先生方のよい関係も生まれたのだと思います。6年生の担任の先生が、卒業のときに、「〇〇くんに会えてよかった。教師としてとても大きなものをもらいました」と言ってくれました。忘れられないうれしいひと言です。

一緒にできることは同学年の交流学級で指導を受けることを希望しましたが、「籍は支援学級にあるので」という理由で、希望を受けていただくことはできませんでした。

**曾山** 息子さんは、ずっと支援学級で担任の先生とマンツーマンの学校生活だったということですね。小学校とは大きく異なる日々の学校生活に、息子さんの不安や戸惑いは大きかったことでしょうかね。

**長島** 息子によかれと思い、「がんばれ」と声をかけてくださった先生方とは、最後まで信頼関係が築けず、1年生の夏休み以降、学校に行けなくなっていました。

**曾山** ボタンのかけ直しができなかったことが、本当に残念ですね。**長島** 私たちも初めは学校へ行かせようとしたのですが、学校に対する拒否反応が強くなり、このままではますます息子の状態が悪くなってしまうと思えました。ちょうど、その頃、カウンセラーのS先生に相談する機会がありました。先生の、「学校に行かなく

筑波大学附属小学校 白石 範孝 編著  
江見みどり・駒形みゆき・田島亮一・野中太一 著

# 国語授業を 変える 「用語」



定価 2,100円(税込) B5判/128ページ

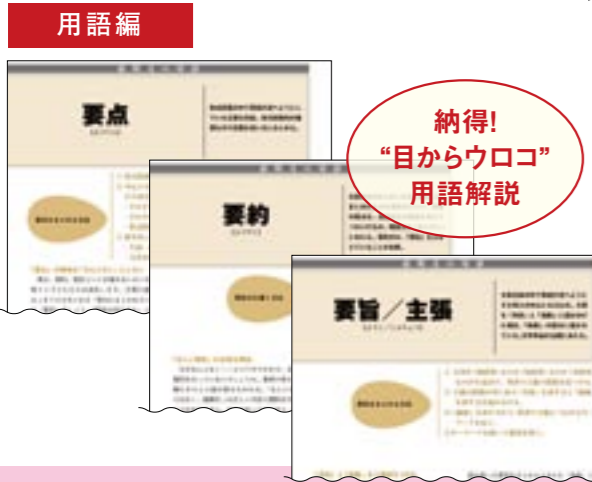
平成25年  
3月刊  
待望の書

ぶんけい

「hito\*yume」14号(前号)に、本書の紹介と一部先行記事を掲載したところ、全国から多数のご意見、ご感想が寄せられました。その一部を掲載します。

- 「要点・要約・要旨」の区別を初めて知った
- 「用語の意味」の共有という考えが参考になった
- 言語環境を整えることの大切さを再確認した
- 「言語活動の充実」の今、タイムリーな内容!
- まさに「目からウロコ」の提言。本が待ち遠しい!
- 私たちの悩みが伝わった? モヤモヤ感がすっきりした!

## [本書の構成]



国語の授業に欠かせない約80語について、  
その定義や使い方を実際の活用例とともに網羅。  
国語授業への大切なアプローチ。

株式会社文溪堂

ぶんけい 教育書 検索

でもいいですよ」という言葉がどれほどありがたかったか……。私も息子も先生のひと言に救われました。

**ボクは、手づくりで組み立ててもらってあげがる**

**曾山** ボタンのかけ直しが難しいときに、外部の力を借りることは必要なことですね。息子さんの状況はその後、どうでしたか？

**長島** 結局、中学校にはその後も行かず、不登校状態でした。中学校時代を息子は「白黒の世界」と表現します。しかし、S先生との関わりの中、心のエネルギーが徐々に満ちてきたのはうれしかったです。

息子がある時、こんなことを言いました。「中学校はオンライン工場のようなもので、ベルトコンベアーに乗せられて卒業までに同じ製品として完成する。でも僕は、匠(たくみ)(職人)によつて一つひとつ組み立ててもらわないと製品にはなれない。だから匠のような先生を探してほしい」と。

**保護者と教師の  
よりよい連携へのヒント**

**曾山** 息子さんの心がまっすぐに伝わってきますね。教師として、いつまでも心にとどめておきたい言葉です。

最後になりますが、小中学校時代を振り返り、保護者と学校がよりよい連携をしていくために大切と思われることは何でしょうか？

**長島** 保護者として学校にお願いしたいのは、「初めから構えずに話を聞いてほしい。『まず、お話を伺いますね』と声をかけてほしい。そして話を聞いて、一人ひとりの子どもの心を理解し、受けとめていただきたい」「発達障害の子どもは、その子なりの歩みの速さがある。みんなと同じ枠の中で歩きたくても速さについていけないこともある。そのことを理解し、無理矢理に同じ枠の中で歩かざることを求めないでほしい」ということです。このことを、先生方が胸にとめ、保護者と話をする機会

## 総天然色の世界 ↓発達障害のA君



を重ねていただければ、きっとよりよい連携が生まれるのではないかと思います。息子が「総天然色の世界」と表現した学校生活が、どこの学校でも実現できることを願っています。

**曾山** 教師であれば、誰もが保護者と信頼関係を築き、共に子どもを育みたいと願うはずで、願いの実現のために、「まず、お話を伺いますね」「一緒に考えていきましょう」「〇〇くんに会えてよかったです」等の言葉が、信頼関係づくりの大きなヒントとなることを学ばせていただきました。また、サポートファイルの

活用が子どもとの信頼関係づくりに大きな力を発揮することにも、小学校時代の様子から確認することができました。

私は今、さまざまな地域の学校に出かけ、研修講演の機会が多くありますので、保護者の思いを先生方に伝えていきたいと思えます。長島さんが主宰し、悩みを抱える保護者が学び合う場でもある「ハートtoハート」の活動に対しても、私にできることはお手伝いさせていただきます。

今日は貴重なお話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。